

## 今日のトピック 米国債券市場の動向（2018年10月） 長期金利は緩やかな上昇へ、社債は堅調さが続く

### ポイント1 国債利回りは上昇 利上げ継続の観測が強まる

- 米国の10年国債利回りは、9月中旬に3%台に乗せ、10月5日の3.23%まで上昇しました。良好な米景気指標の発表に加え、米連邦準備制度理事会（FRB）高官のタカ派的なコメントを受けて、利上げペース加速の見方が強まったこと等によるものです。
- ただ、その後は、米中貿易摩擦の激化や、サウジアラビアを巡る地政学リスクの高まり、業績懸念等による米国株式市場の急落等から利回りは小幅に低下し、10年国債利回りは、概ね3.1%前後での推移となっています。

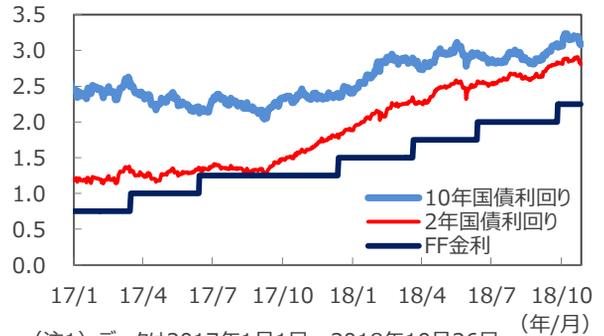
### ポイント2 社債利回りも上昇 株価急落等でリスク回避の動き

- 一方、社債スプレッド（国債と社債の利回り格差）は、投資適格債、ハイイールド債ともに、広がりつつあります。
- 貿易摩擦の激化や、それに伴い景気、企業業績の先行きに不透明感が台頭してきたこと等が原因です。

### 今後の展開 国債利回りは緩やかな上昇へ

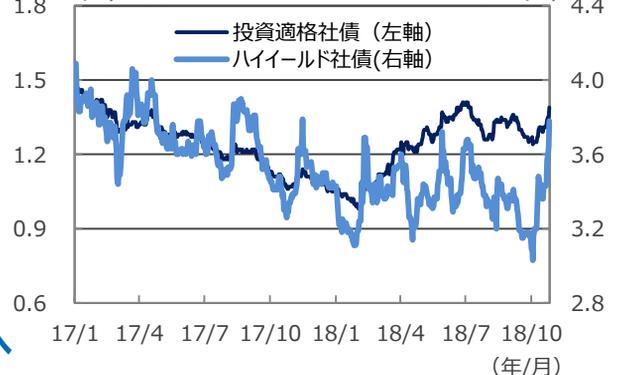
- 米景気は、トランプ政権の拡張的な財政政策に支えられて、拡大基調を維持すると予想されます。従って、FRBは3%程度まで利上げを継続すると見られ、国債利回りには上昇圧力がかかると考えられます。
- もっとも、物価上昇率が低い水準で落ち着いていること等から、利上げのペースは緩慢なものとなる見通しです。貿易摩擦問題がくすぶっていること等も考え合わせると、長期金利の上昇は小幅なものにとどまると予想されます。

(%) 【米国の政策金利と国債利回り】



(注1) データは2017年1月1日～2018年10月26日。  
(注2) FF金利はフェデラルファンド金利で、FRB誘導目標値のレンジ上限を図示しています。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(%) 【米国債と社債の利回り格差】 (%)



(注1) データは2017年1月1日～2018年10月26日。  
(注2) 対国債利回り格差は、社債利回り-国債利回りの差。Bloombergバークレイズ米国社債指数ベース。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

- 社債については、長期金利が低い水準で推移する限り、相対的に高いクーポン（利息）は引き続き魅力となります。FRBの金融政策には注意が必要ですが、米国内の投資家を中心に利回りと安定性を求めるニーズが依然として強いことを勘案すると、社債も底堅い展開が予想されます。

**ここもチェック!** 2018年10月25日 再び急落した米国株式市場  
2018年10月19日 『FOMC議事要旨』、緩やかな利上げを継続へ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。